

第2回 生存科学シンポジウム

「未来からの反射」

日時：2014年12月13日（土）13：00～17：00

会場：大手町サンケイプラザ 4階ホール

基調講演 「医の現在と未来」

高久 史磨

日本医学会会長

総合司会 丸井 英二 後藤 あや

人間総合科学大学教授

福島県立医科大学准教授

シンポジウム

① 疫病は警告する

濱田 篤郎

東京医科大学病院 渡航者医療センター 教授

② 認知症医療への期待と不安

松下 正明

東京都健康長寿医療センター理事長

③ 出前医者が語る人生を支える医療

太田 秀樹

おやま城北クリニック院長

④ 日本の医療の困った「忘れもの」

大熊由紀子

国際医療福祉大学大学院教授



お問い合わせ・お申込み

公益財団法人 生存科学研究所

tel: 03-3563-3518 fax: 03-3567-3608

email: info@seizon.or.jp

URL: <http://seizon.umin.jp>

入場無料です！

共催

公益財団法人 生存科学研究所

公益信託武見記念生存科学研究基金

開催にあたり

私達は今、価値観の多様化と氾濫する情報社会において、生きていることの難しさを実感しています。それぞれが自己とは何か、人間とは何か、人生とは何か、人間はいかに生きるべきか、人間性はいかにあるべきかについて考えているのではないのでしょうか。

武見太郎先生は1970年、ひとり個人の生存のみならず同時代の地球上のすべての人びと、そして世代を超えて人類のより健全な、より人間らしい生存を目標とする“生存科学”という概念を提唱しました。そしてその具現化に向けて1984年、公益財団法人生存科学研究所ならびに公益信託武見記念生存科学研究基金を設立されました。先生は、21世紀における現在の混沌とした文明社会を先見し、人間について考えるあらゆる人びとに自然科学のみならず人文社会科学を含むすべての叡智を統合・融合し、つねに課題を抽出し解決に向けて挑戦し続けることを求めたのだと思います。

人であれ動物であれ、生物として生きる意義は世代の継続です。人の一生はその一コマにすぎませんが、遺伝子は過去から現在そして未来へと受け継がれていきます。地球が生まれて約46億年、生命の起源は約40億年前ですが、人類（ホモ・サピエンス）が誕生してから約10万年の歴史の中で、20世紀における科学技術の急速過ぎる発展は、環境破壊や資源枯渇のみならず少産小死という人類滅亡の道へと導いているようにさえ思えます。過去の事実から未来を予測し、現代へフィードバックし、未来を制御するという武見先生が提示された“未来からの反射”の概念こそ、最も必要なのではないのでしょうか。

第2回本シンポジウムでは医学・医療の観点から“未来からの反射”をテーマとし、基調講演で日本医学会会長高久史磨先生に「医の現在と未来」をお話していただき、生存科学としての地域医療を考え、さらに感染症、認知症、在宅医療、介護について具体的に議論を深めたいと思います。

本シンポジウムにご参加頂いた皆様が、それぞれ自らの問題としてとらえ、未来を考え、そして現在の自己の生きようを見直し、自らの未来を切り開いていただくよう願っています。

会場のご案内

大手町サンケイプラザ 4階ホール

東京メトロ 大手町駅 E1出口直結

(丸ノ内線、半蔵門線、千代田線、東西線、都営三田線)

JR 東京駅 丸の内北口より徒歩7分



第2回生存科学シンポジウムプログラム 「未来からの反射」

13:00-13:10 開会の辞	武見記念生存科学研究基金	笠 貫 宏
13:10-14:10 基調講演		
医の現在と未来	日本医学会長	高久 史磨
14:20-14:40		
疫病は警告する		濱田 篤郎
14:40-15:00		
認知症医療への期待と不安		松下 正明
15:00-15:20		
出前医者が語る人生を支える医療		太田 秀樹
15:20-15:40		
日本の医療の困った「忘れもの」		大熊由紀子
15:50-16:55		
パネルディスカッション		
16:55-17:00 閉会の辞	生存科学研究所	青 木 清

公益財団法人 生存科学研究所

本研究所は、急速な科学の進歩により生じる新たな危機から人類をまもるため、凡ゆる領域から総合的に『生存』問題に取り組む研究所として、医師会会長を長く務めた故武見太郎先生により1984年に設立されました。その活動はホームページ (<http://seizon.umin.jp>) に掲載されています。会員は生存科学に関する自主研究を様々な視点から行い、講演会、シンポジウム、あるいは学術誌「生存科学」を通じて、広く一般の方々とその成果を共有するよう努めております。

公益信託武見記念生存科学研究基金

基金は、故武見太郎先生が創造した生存科学の普及・発展を図ることを目的に1982年9月に生存科学研究基金設定準備委員会により設立されました。爾来、当基金は、人類の将来を展望し、ライフサイエンスを中心としてそれに関連する人文科学及び社会科学を加えて総合的に「人類の生存」を考究する「生存科学」の確立と推進を目的に『武見記念賞』および『生存科学武見奨励賞』を創設し、生存科学とその関連分野で顕著な業績をあげた研究者または実践者の顕彰に取り組んで参りました。